

杉並区発達障害児地域支援講座 実践報告会

「学齢期発達支援事業を通して考える 支援と連携の在り方」

—さくらんぼ教室 実践報告—

2019年3月3日（日）



濱野智恵・上田拓実

1. さくらんぼ教室とは

- ・首都圏に10教室
生徒数2200名(2歳～社会人／2019-02時点)
- ・「発達障害がある子、勉強や友だちつき合いが苦手な子のための学習塾」
- ・学習指導／ソーシャル・スキル・トレーニング指導
教材出版／講演会・研修／学校支援
- ・教室スローガン:「自分らしく生きるために、学ぼう」



さくらんぼ教室
Sakuranbo School

2. さくらんぼ教室における 学齡期発達支援事業の実践



・利用者数 36名／22校(2019-02時点)
(1年生 7名／2年生 15名／3年生 14名)

■「本人への支援」

個別学習クラス(45分)

総合クラス(学習+SST／60分～90分)

■「保護者への支援」

面談の実施

■「学校等への調整」

先生方と生徒情報や支援の方法について共有

個別学習クラス



- ことば・もじ・かず
- 国語・算数・英語／受験科目
- コミュニケーション・SST
- ビジネス

総合クラス SST



1. 学校生活

32 自分の意見を はっぴょうするとき

学校などで、みんなに自分の意見を はっぴょうするとき、どんなことに気をつけたらよいでしょうか？ 皆さんの意見を 見て、れんしゅうしましょう。

○ 先生

○ 君

先生のお楽しみ会で、みなさんはどんなことをしたいですか？

はい！

はい、皆さん。

わたしは、ドッジボールがしたいです。
理由は、みんなでできるからです。

先生、理由もいっしょに はっぴょうすると、わかりやすいですね。

あなただったら、どんな意見を はっぴょうしますか？ 目してきましょう。

ほしきって みよう！

①友だちの失敗が
しんどい。きいてほしい。
みんなに話したいけれど
なついてしまった。

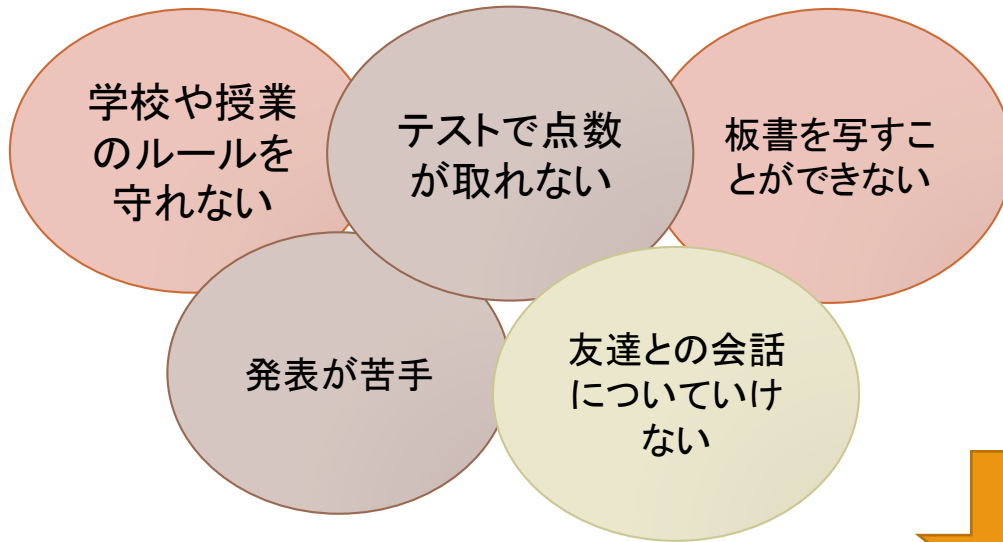
②みんなでゲームがしたい。
みんなが話したいけれど
しんどいので、きいてほしい。

8

- 個別学習 × ソーシャルスキルトレーニング
(集団)
- ・友達と楽しく過ごそう
- ・気持ちについて考えよう
- ・学校のルールやマナーを知ろう

3. 生徒の困り感

学校での様子



家庭での様子



背景には、どんな苦手さ・困難さがある？



4. 学齡期発達支援事業さくらんぼ教室における成果 —実践報告—



➡ より良い支援のためには、保護者との信頼関係や情報共有が大切

5. 保護者の声



学校や公的機関と連携して、
きめ細やかな支援が受けられる

面談や保護者会など
保護者も情報を得られる機会がある

3年生以降も支援してほしい

6. 学校連携事例から考える 成果と課題(1)

(成果)

- ・事例1:「担任の先生と学習の状況を共有して、
教室の支援につなげられたケース」
- ・事例2:「新年度に情報の引継ぎを行えたケース」



6. 学校連携事例から考える 成果と課題(2)

(さくらんぼ教室が感じる課題)

- ・多忙な学校現場における、連携の在り方を考える必要がある
- ・学校、家庭との間を結ぶため、また生徒のためになる前向きな連携であるかを考える必要がある



7. まとめ —連携と継続的な支援—

- ・学校・家庭・地域で協同することができれば、効果的な支援を行うことができる
 - ⇒それぞれの役割、目標の理解・調整

- ・「学齢期」...保護者の不安は大きい
 - ⇒本事業利用期間中に、学校や地域と連携しながら「継続的な支援体制」を整える必要がある